

彫刻は詩の塊だ！

展新 本郷新 コレクション 語りき

本郷新は青少年にむけた理論書『彫刻の美』を著すなど、わかりやすく芸術を語ることに長けていました。本郷の「言葉」を鑑賞のお供にして、作品を味わってみませんか。

現代彫刻がよくわからないという方も、作品に込められた精神を言葉で紐解いていけば、きっと新しい発見がでるはずです。

『人は山を愛する。山はいつ見ても気持ちのよいものである。人は海を愛する。海はいつも人の心をなぐさめるものである。山といい、海といい、自然のこの特別な大いさ、すなわち量は、いつもわれわれに感激をあたえ、われわれの精神を養ってくれる。』

—— 彫刻は、この量の芸術である。

彫刻家は、人間の手でつくった小さい形を通して、山のように高く、海のように深く、森のように静かに、またリングのようには愛らしい精神のよるこびを人々にあたえるのである。』

『(「彫刻の美」著者)』

「裸婦」プロトタイプ1957年

2024 1.19 [金] - 5.26 [日]

本郷新記念札幌彫刻美術館
Hongo Shin Memorial Museum of Sculpture, Sapporo

本館

彫刻家・本郷新(1905～80年)は数多くの芸術論、作品論、自伝などを遺しています。

彼の言葉には、彫刻に対する造形の信念やヒューマンイズムの精神が詰まっていて、現代の私たちの心にも響く力を持っています。当館では、本郷新の自著文献をボランティアの手を借りながら長年に渡って整理し、データ化作業を行ってきました。本展では、集積された資料を公開しつつ、言論の側面から本郷新の彫刻に対する思念を浮き彫りにします。



本郷新の自著を含む新聞記事などのスクラップブック

札幌への想い

北海道、札幌で育った本郷新は、東京に拠点を置きつつも晩年になるにつれ地元への想いが高まり、札幌にもアトリエを築きました。そんな彼の北の風土への想いは、制作とどのように結びついていたのでしょうか。

『私にとって「さつぽろ」は母なる大地なのである。だからさつぽろを愛することでは人後に落ちない。従って都市の美化、環境の整備、とくに建築や彫刻などの造形物には職業的関心をもっている。』(『私の初夢』月刊さつぽろ 1968年新年号)

公共性と彫刻

全国の公共空間に数々の彫刻を設置した本郷新。様々な社会問題に晒されながらも、それでも公共空間に作品を置き続けた彼の思念を紐解きます。

『私は今まで数百の裸を相手に数百の彫像を作ってきたが、大空の下の裸ほど世に美しいものはないと信じている。美しいが故に人類は裸形を神としてきた歴史があるのである。裸になつて踊りたい若者達よ、君達の希い、祈りをいま一つ高い次元で美に昇華させよう。』(『ストリーキング』毎日新聞 1974年5月6日)



《象》札幌大通公園、1958/59年設置 撮影：並木博夫

『彫刻は詩の塊 なんだということ
ただ眼で見た描写や写実ではなくて、
詩の心 人間の内から溢れくるもの
そういうものとして彫刻はぼくの内に根付きました』
(作家訪問 本郷新『ビジョン』1974年1月号)

本郷新の彫刻論は多岐にわたりますが、基本的な部分ではデッサンが挙げられます。本展では彼のデッサンにまつわる言葉、実際の裸婦デッサン、裸婦のブロンズ像などを展示し、理論を立体視します。

彫刻とデッサン

『いままでは造形というとなにかも含めてしまっていますが、はじめはもっと人間の空間における意思としての形、そんな精神的なニュアンスを持った言葉だったのです。』(『日本の近代彫刻にもこんな造形の原理』美術手帖 1962年1月号)

『デッサンは、石膏のデッサンとか、人体のデッサンとか、油絵の基礎勉強で終わってううものではない。すべての造形の中に生きてその造形に生命を与えているものなのだ。絵や彫刻がそれ故に個として立ち、それ故に人に語る原語的性格をもつものなのだ。』(『デッサンとデザイン』三彩 1964年9月号)



《塔「わたつみのこえ」》コンテ・紙、1952年

平和への想い

本郷新の反戦、平和への想いは、彫刻の制作と切っても切れないものでした。そうした彼の想いを象徴する作品に対する言葉を紹介します。

『「無辜の民」はアラブ民族、中東民族、インドシナ半島の戦争の風俗ではなく、戦争というものに人間は何もかも根こそぎ失われる、その肉体のかたまり、つまり典型というものを作つてみたかった。』(『私のなかの歴史、本郷新(4)』北海道新聞 1979年9月1日)



《無辜の民 潰れた人1》ブロンズ、1970年

コレクション展 かく語りき本郷新「彫刻は詩の塊だ!」

2024 1.19 [金] - 5.26 [日]

休館日 月曜日(ただし月曜祝日の場合開館し、火曜日休館)

開館時間 午前10時～午後5時(最終入館は午後4時30分まで)

観覧料 一般300(200)円、高校・大学生200(100)円、中学生以下無料

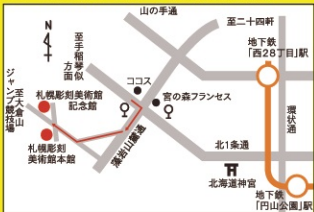
※()内は10名以上の団体料金

※65歳以上の当日料金は250(団体200)円になります。年齢の分かるものをご呈示ください。

会場 本郷新記念札幌彫刻美術館 本館

主催 本郷新記念札幌彫刻美術館(札幌市芸術文化財団)

064-0954 札幌市中央区宮の森4条12丁目



●公共交通機関をご利用の場合
地下鉄東西線「西28丁目」駅バスターミナル2番のりばから山の手線循環西20乗車(約5分)「彫刻美術館入口」下車、徒歩約10分

●お車をご利用の場合
市内中心部より約15分、無料駐車場10台あり

TEL 011-642-5709

http://www.hongoshin-smos.jp/



あわせてご覧ください
コレクション展 石と木
記念館にて開催中
～2024.5.26 [日]

本館受付にて販売中
彫刻の美
本郷新『彫刻の美』
2005年版
3,410円(税込)

本郷新記念札幌彫刻美術館
Hongo Shin Memorial Museum of Sculpture, Sapporo

@inmyroomsapporochobi

@sapporochobi